

事業概要

新名神高速道路は名神高速道路と適切な交通機能を分担することで、名神の混雑を解消し、高速道路ネットワークに求められる「高速性」「快適性」「安全性」「定時性」「信頼性」などの機能を高めるとともに、我が国の産業・文化・社会経済活動の振興に寄与することを目指しています。新名神大津事務所では、滋賀県域の12.2 kmを担当しています。



進捗状況

用地取得は、3地区が完了し、8地区で実施中です。進捗率は6割程度。埋蔵文化財調査については、8割以上が完了しております。新名神(滋賀県域)では、牧、中野、里、関津地区においては工事用道路工事に着手しております。また、牧地区においては、本線部の初段工事を発注し、現在工事着手に向けて、準備中です。大津市南部の自治会で形成される大津市南部三学区新名神対

策協議会においても、早期着手気運醸成があり、安全に留意し、開通を目指して、行政・地域と一体となって事業を進めています。埋蔵文化財調査は、地権者の皆様と文化財関係部署のご協力を頂き進めています。また、地域の皆様との交流を図るために地域イベントに積極的に参加し、高速道路事業のPR活動を行っております。

◆各地区の進捗状況(平成29年6月1日現在)

完了 ◆ 実施中 ◇ 実施予定 □

区間	進捗率(%)	大津JCT~滋賀県域(12.2km)											
		大津大石工区(6.4km)				大津田上工区(3.3km)				大津上田上工区(2.5km)			
工事区		大石学区(6.4km)				田上学区(3.3km)				上田上学区(2.5km)			
学区名		大石学区(6.4km)				田上学区(3.3km)				上田上学区(2.5km)			
自治会名(km)		小田原町 2.1km	龍門町 2.4km	中町 0.4km	東町 1.5km	関津 1.0km	里 0.3km	枝町 0.7km	森町 0.5km	羽栗 0.8km	新免 0.4km	中野町 0.9km	牧町 1.2km
用地取得のための協議	設計協議	100	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	幅杭設置	96	◆	◆	◆	◆*	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
用地取得	62	◇	◇	◆	◇	◇	◆	◇	◇	◇	◆	◇	
埋蔵文化財調査	-	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◇	◆	◆	◇	◆	
工事着手	本線	2										◇	
	工事用道路	-					◇	◇				◇	◇

※境界未確定地を除く

工事の状況

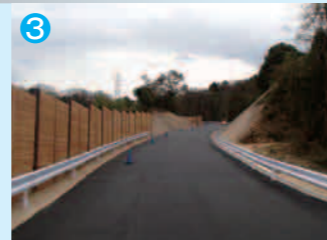
中野工事用道路工事



施工状況(航空写真)



橋梁部は上部工の架設が完了し、橋梁附帯工事を実施中(荒戸橋) 今後は、滋賀県にて橋梁前後の取り付け部の舗装工事を実施予定



舗装施工済み(工事用道路)

牧工事用道路工事



施工状況(航空写真)



昨年12月から工事用仮橋を施工中(仮橋)



拡幅工事を実施中(市道幹2020号線拡幅)



凡例  
 〓 : 橋梁区間  
 - - - : トンネル区間

※この図は、航空写真・図面等により作成したイメージです。完成と異なることもあります。

大津市の土木遺産(大津市・南部編)

「土木遺産」とは、公益社団法人土木学会が2000年度から行っている土木施設の表彰制度です。日本国内の歴史的建造物のうち、幕末から昭和20年代の土木構造物を対象に、地域産業の発展や生活文化の形成に大きな影響を与えて私たちの暮らしを支えてきた土木施設を、保存すべき共有の財産と位置付け、「土木遺産」として認定しています。今回は、大津市南部にある土木遺産を紹介します。

**A オランダ堰堤**

形式 石積み砂防堰堤  
 規模 高さ7m/天端幅5.8m/堤長34m  
 竣工 1889年(明治22年)

設計者は、内務技師の田辺義三郎。明治政府によって内務省土木局に招かれ、西洋の土木技術を日本に伝えたオランダ人、ヨハネス・デ・レーケが指導したことに由来する。

**B 南郷洗堰**

形式レンガ 石造洗堰  
 総延長 173m/水流し32門(幅3.6m)  
 完成 1905年(明治38年)

レンガ造りの堂々たる姿で、長さ14尺(4.7m)×8寸角(24cm)の角材を人力で落とし、15~17段(平常時)積み重ねて川の流れを調整する角落とし堰。きわめて単純な仕組みだが、この洗堰により琵琶湖周辺ならびに下流の宇治川、淀川を洪水から守り、水道・工業・農業用水を供給するという大きな役割を果たした。

**C 鎧堰堤**

形式 石積み砂防堰堤  
 規模 高さ6.8m/天端幅2.2m/堤長9m  
 竣工 1889年(明治22年)

正面に見える石は、その成分から周辺で採取された花崗岩と考えられ、大きさは、幅36cm×長さ1.22m程度である。階段状の珍しい積み方で、造形的にも美しい。設計は、田辺義三郎。

**(新)オランダ堰堤**

形式 重力式コンクリート(表面は石積み)  
 規模 直さ9m/天端幅3.0m/堤長34m  
 竣工 2000年(平成12年)

日本とオランダの交流が始まって400周年に当たる2000年に、これを記念しオランダ堰堤風に造られた。

みつばち保育園の皆さんがお花見をしました。

4月13日、NEXCO西日本新名神大津事務所の敷地内で、みつばち保育園の皆さん18名と2名の先生方が、花見を行いました。

昨年に引き続きのお花見でしたが、晴天に恵まれ、満開の桜の木の下を子どもたちが元気に走り回っていました。地元の皆様からも愛されている桜です。

来年もぜひ、花見に来てください(事務所員一同😊)。



地元老人会の皆さんとの交流会を開催しました。

4月8日、地元の老人会「老松会」の皆さん32名とNEXCO西日本新名神大津事務所で開催を行いました。当日は雨天のため、新名神大津事務所敷地のお花見を取りやめ、地元の観音寺の自治会館での実施となりました。新名神大津事務所からの、「日本に自生する桜」の説明や「桜雑学クイズ」などを楽しみ、交流会の最後にはみんなで、「琵琶湖周航の歌」を歌うなど、地元への愛を深めつつ、交流会はおおいに盛り上がりしました。



倉庫棟を増築しました

NEXCO西日本 新名神大津事務所において、倉庫棟の増築を行いました。



手前のNEXCOマークのある棟が、増築された倉庫棟

「連絡調整会議の開催」

4月26日、新名神高速道路建設事業の課題・問題点を解決するために、「第12回新名神高速道路事業連絡調整会議」を開催し、関係行政機関(滋賀県、土地開発公社及び大津市)と活発な意見交換を行いました。



創刊から2周年を迎える「みちみらい」。読者の皆様から編集制作を担うNEXCO西日本コミュニケーションズ(株)に寄せられた質問をもとに、滋賀県内の新名神高速道路建設を担当する「NEXCO西日本関西支社新名神大津事務所」所長の赤松邦康さんに話を聞きました。



新名神大津事務所  
所長 赤松邦康さん

— 滋賀県内では、新名神事業は、現在の程度まで進んでいますか？

— 平成24年4月の事業許可を受けて以来、現在、用地取得は約6割が完了し、牧、中野、里、関津の4地区において工事用道路の工事に着手しています。

— 今後はどのように建設工事が進んでいくのでしょうか？

— 平成35年度開通を目指して、用地取得と協議がまとまった地域から、本線工事に着手する予定です。

— この事業によって、滋賀県はどのように変化するのでしょうか？

— 滋賀県域12・2kmの中に、

新名神大津スマートIC(仮称)

と大津SA(仮称)を建設する予定です。これにより大津市南部

地域の産業や観光の活性化が見込まれています。具体的には、大

津市を中心にしたスマートIC(仮称)活用等地域活性化委員会

会で議論します。また、名神高速道路の渋滞が解消され、広域的

ネットワークの形成によって、利便性が高まります。さらに防

災機能の向上や高度医療体制の充実も期待できます。

— 様々な地域イベントに参加する新名神大津事務所では、今後

どのように取り組みを進めていきますか？

— 引き続き、地元の大津市南部三学区の文化祭や自治会の収穫祭、滋賀県交通安全イベントなどに参加します。楽しみながら新名神の事業を理解してもらえよう、子どもも参加できるものを増やす予定です。また田上山砂防協会主催の卒業記念植樹にも、積極的に参加していきます。現場の工事進捗に合わせて、地域の方々への現場案内も積極的に行います。

— 新名神大津事務所は、どのように仕事を進めているのでしょうか？

— 社員は若者や女性が多く活気があり、自由闊達に議論を交わしながら、チーム一丸となって取り組んでいます。社屋周辺の清掃作業や、社内に緑を増やすなど、女性社員の発案や気づきを取り入れ、皆気持ちよく働いています。

— 赤松所長が仕事をされる上で、大切にされていることは？

— 近江商人の精神「三方よし」。私たち流は、「地元よし、事務所よし、強力会社(工事会社・コンサルタント会社)よし」です。道路工事の完成だけが目的ではなく、未来の滋賀のために何ができるのかを考え、地域の声を大切にしながら誠心誠意取り組んでいます。

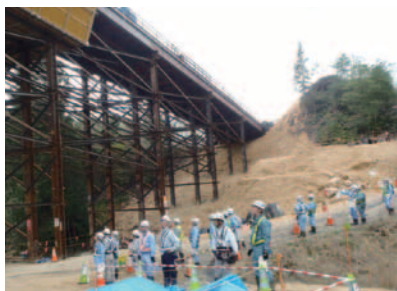
— 広報誌「みちみらい」を創刊して2周年、発刊の思いは？

— 制作コンセプトは「大津の仲間」。文化財や自然、街など多彩な大津の魅力を発信し、広く

PRできるものを目指しています。そのために多くの人に手に取ってもらえるように読みやすい構成を心がけ、新名神建設事業を少しでも理解して頂ければと思っています。

— 最後に地域の皆様や広報誌「みちみらい」の読者の皆様にメッセージをお願いします。

— 平素より新名神高速道路建設事業に、ご理解・ご支援を賜りありがとうございます。今後も滋賀の情報や新名神の進捗状況について報告します。新名神の応援団として、末永く広報誌を愛読して頂ければ幸いです。さらに地域と一体となり安全に着実に工事を進め、県内外の人々に便利で気軽に利用してもらえ、ことを目指しますので、皆様のご理解・ご支援をよろしく願います。



現場の安全パトロールにて